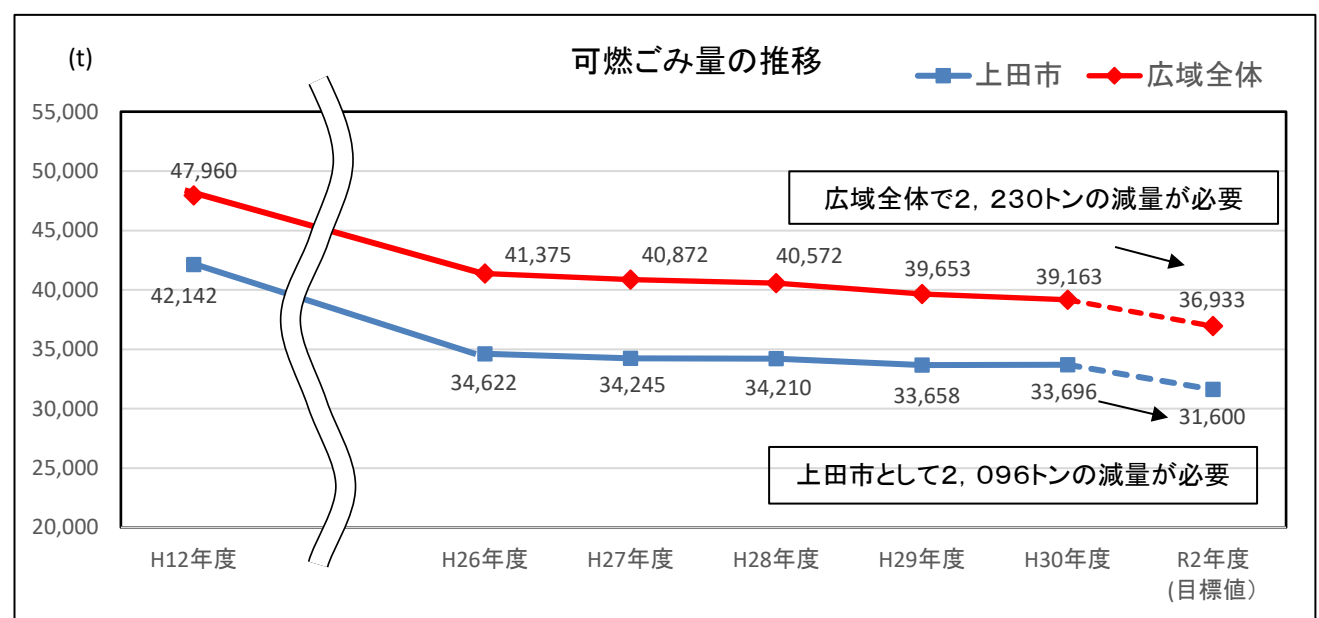


1.可燃ごみ量の推移

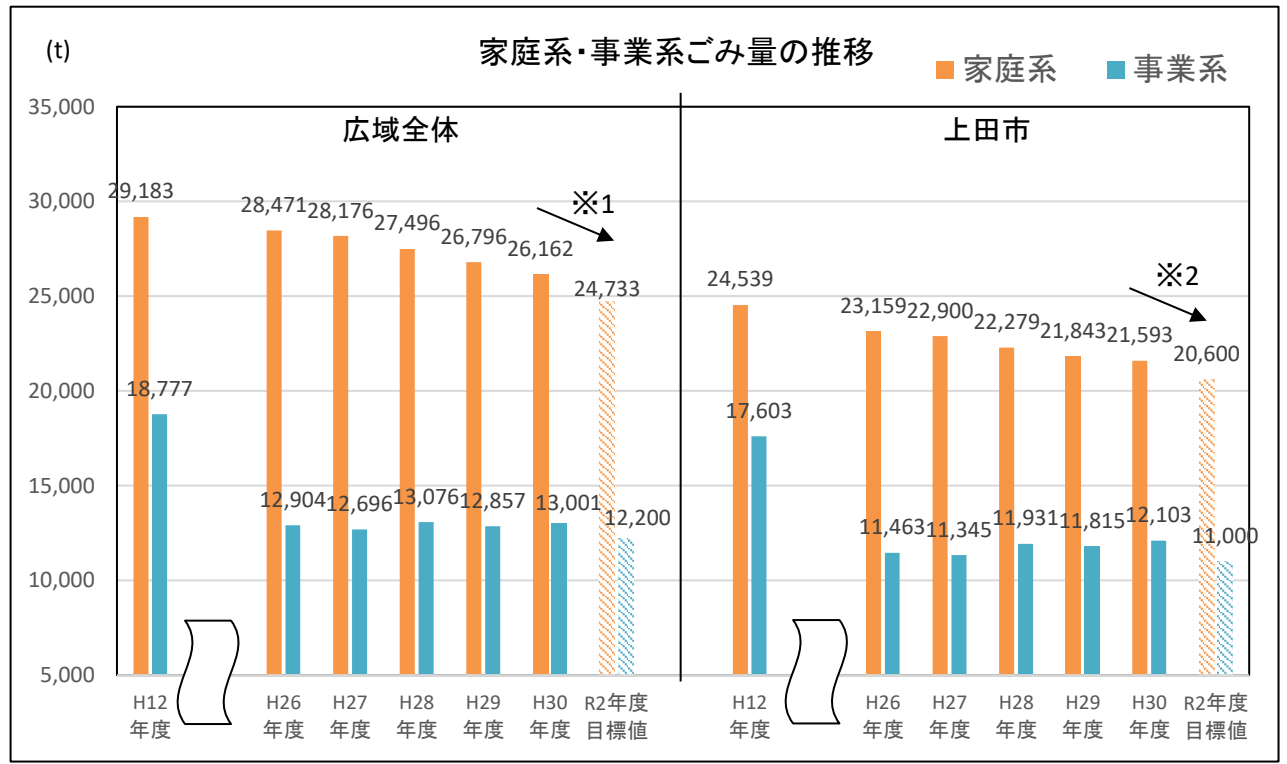


注1)「第3次資源循環型形成推進基本計画」(H25年5月環境省)では、平成32年度の一般廃棄物の減量化の取り組み指標として、「平成12年度比25%減」としている。
注2)「ごみ処理広域化計画」(H28年2月上田地域広域連合)では、可燃ごみの減量化目標値の設定において、平成26年度を実績値の基準としている。

可燃ごみ全体としては減少傾向にあるが、令和2年度の減量化目標値達成のため、2年間で下記のとおり減量が必要

広域全体 : 2,230トン
上田市 : 2,096トン

2.可燃ごみにおける家庭系ごみと事業系ごみの推移



※1 広域連合では、減量化目標値達成のため、2年間で下記のとおり減量が必要
家庭系 : 1,429トン
事業系 : 801トン
全体 : 2,230トン

※2 上田市では、減量化目標値達成のため、2年間で下記のとおり減量が必要
家庭系 : 993トン
事業系 : 1,103トン
全体 : 2,096トン

3.令和元年度の可燃ごみ処理実績値 (2月末現在の集計値)

広域連合 合計	H30年度 集計値(t)*1	R元年度 集計値(t)*2	増減(t)	前年比(%)
家庭系	24,232	24,018	-214	-0.88
事業系	11,964	12,536	572	4.78
合計	36,196	36,554	358	0.99
うち 災害ごみ(可燃)	-	129	-	-

*1: H30年度集計値 : H30.4月~R元2月までの集計値
*2: R元年度集計値 : R元.4月~R2.2月までの集計値

4.事業系ごみ増加傾向の要因調査

上田クリーンセンターへ可燃ごみを持ち込んでいる一般廃棄物収集運搬許可業者のうち、年間1,000トン以上の取り扱いがある大手事業者に聴き取り調査を実施した。

○聴き取り調査結果

A社	<ul style="list-style-type: none"> ・H30年度の上田クリーンセンターへの搬出量は、H29年度と比較して約300トン増。 ・事業所から搬出されるごみ量に、大きな変化はない。 ・空き家の家財の片づけ等、個人から依頼されるごみ量が多くなってきている。
B社	<ul style="list-style-type: none"> ・H30年度の上田クリーンセンターへの搬出量は、H29年度と比較して0.7トン増。 ・事業所から搬出されるごみ量に、大きな変化はない。 ・空き家の家財の片づけ等、個人から依頼されるごみ量が多くなってきている。 ・個人依頼のごみは民間施設へ搬出。上田クリーンセンターへの搬出量は増となっていない。
C社	<ul style="list-style-type: none"> ・H30年度の上田クリーンセンターへの搬出量は、H29年度と比較して約25トン増。 ・事業所から搬出されるごみ量に、大きな変化はない。新規取扱店の増加分あり。 ・R2年度から、大手事業所の生ごみを試験的に上越の民間施設へ搬出予定。